



(3,000円)
通

実用新案登録願

昭和52年9月7日

特許庁長官 殿

1. 考案の名称

メガネワタ
眼鏡神

2. 考案者

サバエ レタクソウ
福井県越前市亂町28の5

ホリ オワ
福 川 瞳

3. 実用新案登録出願人

サバエ レタクソウ
福井県越前市亂町28の5

株式会社 シヤルマン眼鏡

ホリ オワ
代表者 福川 瞳

4. 代理人

〒104 東京都中央区銀座8丁目9番6号

第2千成ビル6階

(6317) 弁理士 佐々木 功

電話 代表 (571) 4686

5. 添付書類の目録

- | | |
|-----|------|
| (1) | 明細書 |
| (2) | 図面 |
| (3) | 願書副本 |
| (4) | 委任状 |

- | | |
|---|---|
| 1 | 通 |
| 1 | 通 |
| 1 | 通 |
| 1 | 通 |

方式
審査

55 119407



明細書

1. 考案の名称 眼鏡枠

2. 實用新案登録請求の範囲

1) 眼鏡用レンズを支持する眼鏡枠本体の両端に蝶番を介して蔓を折り畳み自在に取り付けしてなる眼鏡枠において、前記眼鏡枠本体の両側端に該眼鏡枠本体に対し、裏面外側に傾斜して突出した蔓支持突起を備えるとともに前記蝶番の一方端側に前記蔓支持突起に対し、長手方向スライド自在に固定した取付部を備え、前記両蝶番の他方端側に取り付けした蔓間の間隔を変更自在にしたことと特徴としてなる眼鏡枠。

2) 前記蝶番の取付部を前記蔓支持突起を出入自在に嵌合した筒状に形成してなる登録請求の範囲第1項記載の眼鏡枠。

3) 前記蝶番の他方側を前記蔓に対し、長手方向にスライド自在に固定してなる登録請求の範囲第1項記載の眼鏡枠。

3. 考案の詳細な説明

本考案は眼鏡枠の改良に関する。

一般に眼鏡枠はその裏の長さにあつては使用者の寸法に合わせて折り曲げ調整する等の調整が可能なものであるが両裏間の間隔は変更調節することができないため、枠本体の両端間の長さの異なるものを多數製造しておき、使用者が自らの寸法に合つたものを店頭で選び購入しているところである。

然るに各人の寸法や顔は多様であるため、多數の使用者に最適のものをあらかじめ作製しておくことは困難であり、これがために需要者にあつても自らの好みに合つてかつ、寸法の適当なものを得ることができない場合が多く生じている。

本考案はかかる点にかんがみ、裏の長さのみならず、裏間の幅をも自由に調節が可能であつて、しかもデザインを損うことのない眼鏡枠を提供したものであり、その要旨とするところは眼鏡用レンズを支持する眼鏡枠本体の両端に紫番を介して裏を折り畳み自在に取り付けしてなる眼鏡枠において、前記眼鏡枠本体の両側端に該眼鏡枠本体に対し、裏面外側に傾斜して突出した裏支持突起を

備えるとともに前記蝶番の一方端側に前記蔓支持突起に対し、長手方向スライド自在に固定した取付部を備え、前記両蝶番の他方端側に取り付けした蔓間の間隔を変更自在にしたことを特徴とする眼鏡枠に存する。

次に本考案の実施の一例を図面について説明する。

図中1は眼鏡用レンズ2,2を支持した眼鏡枠本体である。この眼鏡枠本体1の両側端部にはその眼鏡枠本体1に対し、その裏面外側に向けて傾斜させた蔓支持突起3・3が一体的に穿設されている。

この両蔓支持突起3に蝶番4を介して蔓5・5が取り付けされている。蝶番4は眼鏡枠本体1側の支持部4aと蔓5側の支持部4bとが軸4cをもつて枢支されており、その両支持部4a, 4bが互いに開かれた時、蔓5と眼鏡枠本体1とが略直角配置になるようその最大開き角度が規制されている。

また、両支持部4a, 4bは筒状に形成され、その内部に蔓支持突起3及び蔓5が各々長手方向

にスライド自在に嵌合され、ねじ6,6をもつて各々固定されるようによっている。

尚図中7は固定用のねじ穴であり、8はねじ挿入穴である。

このように構成される眼鏡枠は蔓支持用突起3に対し蝶番4の一方側の支持部4aをスライドさせてその固定位置を変更することによつて両蔓5・5間の間隔が変更され、また他方の支持部4bに対し、蔓5をスライドさせて固定位置を変更することにより眼鏡枠本体1に対する蔓5の長さが変更される。

尚上述の実施例にあつては両支持部4a,4bが筒状に形成されたものを示しているがこの外、断面が鉤状あるいは板状のものであつてもよく、また蔓支持用突起3は板状のみならず筒状、鉤状、その他の形状にしてもよいものである。

本考案の眼鏡枠は上述のように構成され、眼鏡枠本体の両側端にその裏面外側に傾斜させた蔓支持突起を備え、これに対し蝶番の一方側の支持部をスライド自在に固定させることによつて蔓間の

間隔を変更調節することができ、各使用者の寸法に容易に適合させ得ることとなり、また蔓支持突起は眼鏡枠本体に対し、裏面外側に傾斜させて突出させたことにより、眼鏡のデザインを損ねるとなく、蔓間隔の調節が可能になつたものである。

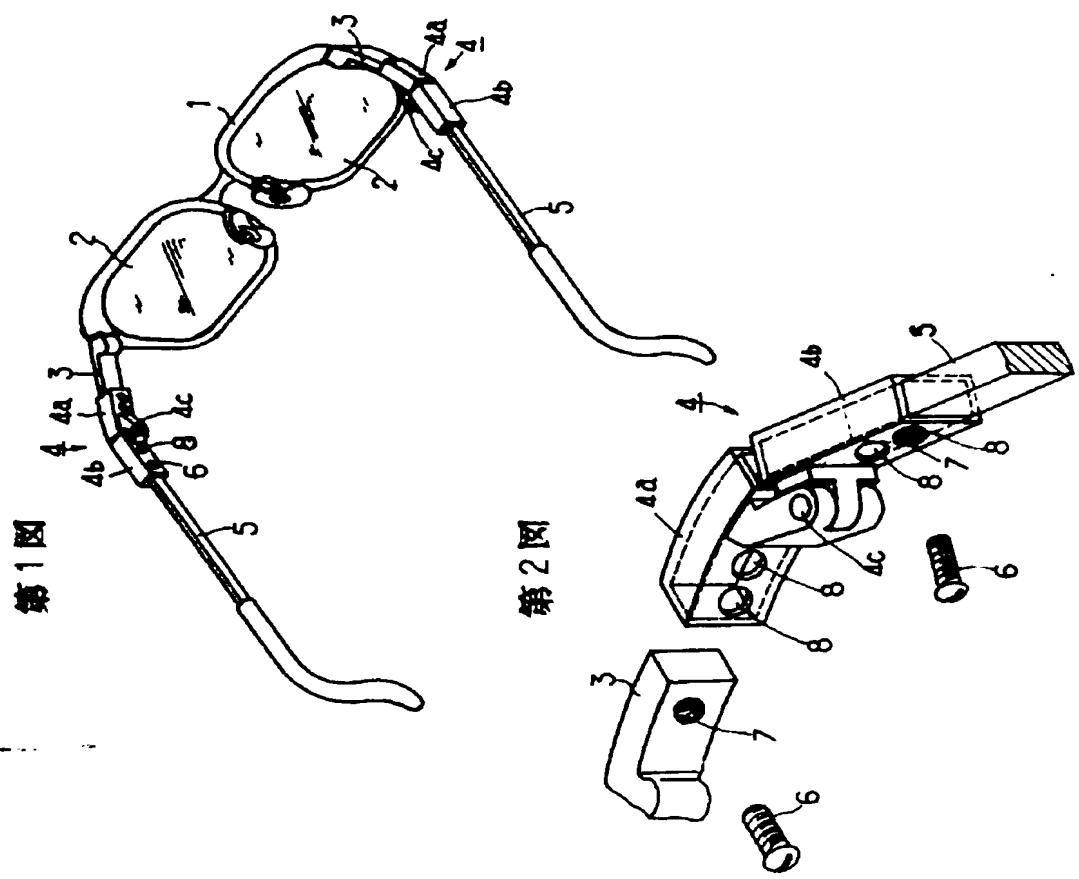
4. 図面の簡単な説明

図面は本考案の実施の一例を示すもので第1図は全体の斜視図、第2図は要部を分解して示す斜視図である。

1 … 眼鏡枠本体、 2 … 眼鏡用レンズ、 3 … 蔓支持突起、 4 … 梨番、 4 a, 4 b … 支持部、 5 … 蔓。

実用新案登録出願人 株式会社シャルマン眼鏡

代理人 弁理士 佐々木 功



实用新穎性発明人 桑式会社 フルアソシエ
代理人 中澤士 勝・木村